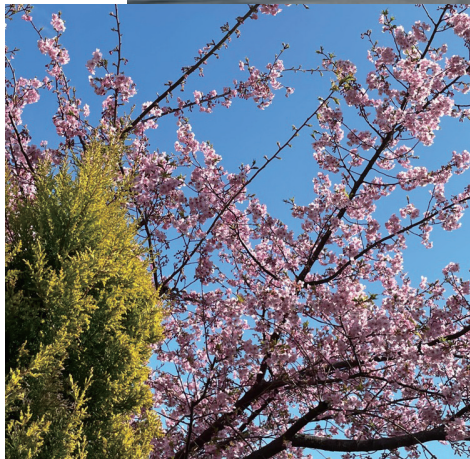


～キヨセ ケヤキ ロードギャラリー～

彫刻と共に春へ～



上記の写真は手塚登久夫が作り上げた梟月夜。手塚登久夫は梟作品を数々手がけている彫刻家であり、東京芸術大学を卒業した後、東京芸術大学名誉教授として日々芸術に向き合っています。彼は、第一回東京野外現代彫刻展、現代日本彫刻展などの展覧会に多くの彫刻を出品しています。この梟月夜のあるけやき通りでは、この作品以外にも様々な作品が展示されています。右記にある幼い麒麟・堅い土という作品は、独特の凸凹感でゴツゴツした雰囲気だけでなく、しなやかさも感じさせていて、上記の彫刻とはテーマががらりと変わっています。

けやき通りには彫刻以外にも楽しみ方があります。それは自然を楽しむことです。清瀬は緑が多く、けやき通りは特に清瀬の自然を目の当たりにすることができます。冬から春に移り変わる今の時期では、左記のような梅の花が綺麗に見られます。このように、けやき通りは彫刻のような芸術的な視点から見ることができれば、清瀬だからこそその自然を感じることもできるのです。

私は、普段けやき通りを通ることが多いのですが、まじまじと彫刻や清瀬の自然を観察することはなかったので改めて清瀬は自然に囲まれたのどかな良い町だなと実感できました。